



# 春よ来い 第六一九回 忘れ得ぬ墓参りに

さいたま市在住のNさんからラインでメッセージが届いたのは一二日の夜でした。そこには新型コロナウイルス感染症のことが心配で帰省できず、墓掃除も墓参りもできない、「先祖に申し訳なく思っております」などと書かれていました。

こういうメッセージが来たのは、フェイスブックでの私の発信をNさんが見たからだと思います。

その日、私は、代石にある黒竹や半入沢にあるわが家の孟宗竹を使って、花立て、ロウソク立て、線香入れなどを手づくりで用意し、尾神岳のふもとにある虫場のわが家の墓へ行ってきました。墓参りの準備です。作業が一段落したところで、ミンミンゼミの鳴き声と共に、ふるさとの山、虫場の山々を動画で撮り、発信しました。

この発信を見て、懐かしい思いを抱かれた人たちが何人もおられたようです。虫場に実家や親戚があった人など虫場に関係のある人たちから、「かつて、おふくろも同じ空気すってたんですね…澄み切っていますね」「今年は墓参りには行けません」などという声が寄せられました。

Nさんからのメッセージを読み、私は雨さえ降らなければ、Nさんの先祖のお墓のお参りに行こうと気持ち固めました。ただ、私はNさん宅の墓場の位置はだいたいわかってはいたものの、一度も訪れたことがありません。杉林の中にひっそりとあるお墓…ひよっとすれば、草むらをかき分けて行かなければならないかもと心配になりました。

翌一三日、朝の段階で強い雨がいつとき降ったものの、その後はまずまずの天気となりました。わが家のお墓へ持っていく花を用意したその足で、私は虫場をめざしました。時間は正午を過ぎ、一時近くになっていたと思います。

虫場に着くと、まずNさん宅のお墓に行

くことにしました。虫場の中心部から旧源小学校水源分校に行く通学道路がありま

す。その起点にあたるところに車を止め、雨でぬれた道を登りました。

途中、オトコエシやゲンノシヨウコなど野の花も採り、園芸種の花と一緒に手に持ち、お墓をめざしました。通学道路だった道から杉林に入り、急な坂道を二〇分ほど

のぼったところ、墓はありました。その墓場へは草刈りをする必要もなく、歩いて行くことができました。平らになった場所まで行って、驚きましたね。一見したところ歌碑かと思間違えそうな形の大きなお墓が西側にあったのです。その東には、普通のお墓があり、さらに北側には仏様の姿が彫られた像が四つ、これらは一体のものとなって安置されていました。これらは一軒の家のものとは思えぬくらい、りっぱなものでした。

あとでNさんから聞いたのですが、Nさんの父親と仲良しだった「いどんしり」（屋号）のお父さん（故人）が二人でこの墓場にいたときに、子どもたちの笑い声が聞こえたことがあるとのことでした。おそらくNさんの先祖には幼くして亡くなった人が大勢いたのではないかと考えられます。

私は持参した花を飾り、線香をあげ、ロウソクに火をともした後、手を合わせました。目をつむったときに、私が子どもの頃、囲炉裏の中で大きな木のドンゴロを燃やしながら、よく昔話をしてくれたマンバあちゃんの姿が思い浮かびました。

新型コロナウイルス感染症が広がるなかで今年はお盆もお墓参りも一変しています。でも、思わぬきっかけで初めてNさん宅のお墓参りができ、虫場にこのようなりっぱな場所があることを知りました。そして、私が小さかった頃のことも思い出しました。この驚きと体験は生涯忘れることのない思い出となるでしょう。

## コウノトリが再びやってきた



特別天然記念物のコウノトリが今年も上越市吉川区にやってきました。これで2年連続です。

13日の夕方、下中条の方より「また、コウノトリが来ているよ」と電話が入り、すぐ駆け付け、撮った写真の1枚が右の写真です。

画像をよく見ると、左右の足にはめられた足輪の色の配置は昨年8月にやってきた鳥と同一でした。このコウノトリは昨年4月19日に生まれ、同年6月23日に巣立ったオスです。何かいいことがあるといいですね。

## ニュースフラッシュ

### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	8月5日(水)	8月12日(水)
上越南消防署	0.053	0.053
上越北消防署	0.040	0.040
新井消防署	0.047	0.050
頸北消防署	0.047	0.043
頸南消防署	0.050	0.057
東頸消防署	0.047	0.053
名立分遣所	0.053	0.057
高士分遣所	0.053	0.053

## 尾神岳での山の上ライブ、今年は200人を超える



恒例となった尾神岳でのライブ。今年は200人を超える人たちが賑わいました。

新型コロナウイルス感染症対策の「自粛」で演奏する皆さんも、聴衆のみなさんも久しぶりのライブで生き返った感じでした。